

《薬局サーベイランスコメント》

『第4週（1月23日～29日）の推定受診患者数は約144万人と薬局サーベイランスが始まって以来の最高値を記録したが、第5週は更に患者数が増加する可能性がある』

2017年1月31日

済生会中津病院感染管理室

安井 良則

薬局サーベイランスによる今シーズン（2016/2017年シーズン）の2017年第4週（1月23日～29日）の全国のインフルエンザ推定受診患者数は、前週（第3週）の推定値（1,056,239）よりもさらに大きく増加して1,439,807となり、2週連続して100万人を上回るとともに、2008年に本サーベイランスが始まって以来の最高値を記録しました（図1）。休日明けの月曜日（1月30日）の推定受診者数は370,432とやはり今シーズンの最高値を8万人近く上回っていて、第5週（1月30日～2月5日）は更に患者数は増加する可能性があります。

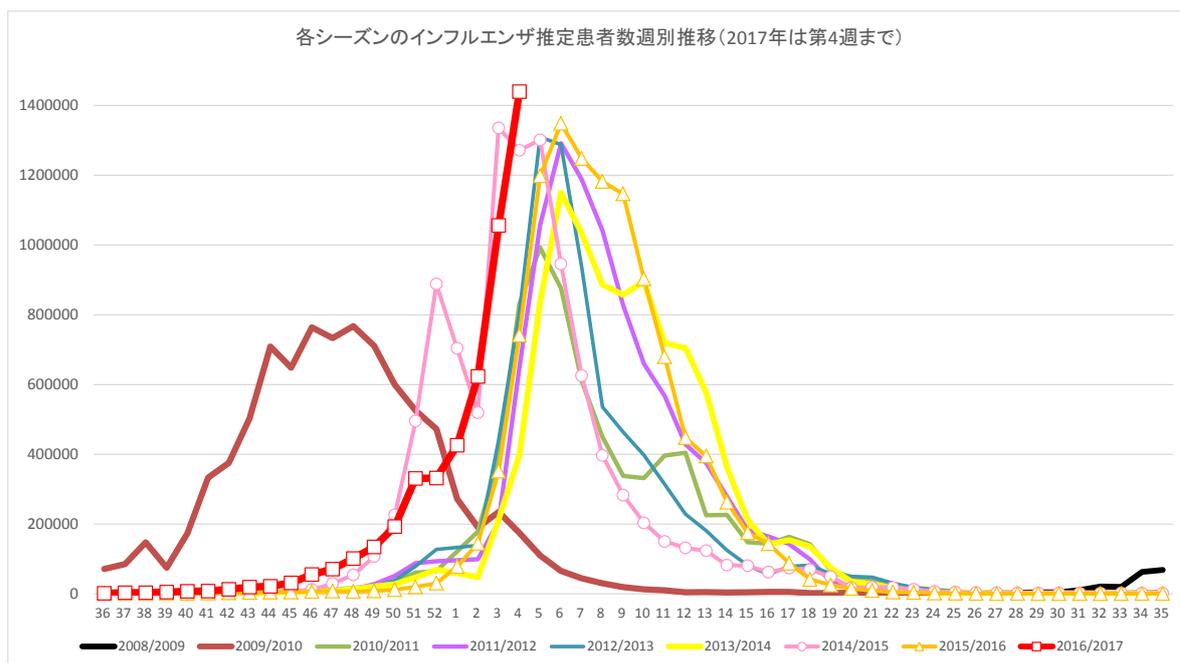


図1. 過去6シーズンと今シーズン（2016/2017シーズン）のインフルエンザ推定患者数の週別推移（第4週の推定受診患者数=1,439,807）

2016年第36週から2017年第4週までの累積の推定患者数は4,874,164であり、日本の人口推計値（2016年11月1日現在、1億2695万人）で換算すると、累積の罹患

率は約 3.84%となりました。罹患率を年齢群別で比較すると 5～9 歳 (11.91%、632,211 人)、10～14 歳 (11.66%、641,515 人)、15～19 歳 (8.04%、480,874 人)、0～4 歳 (7.54%、387,304 人)、20～29 歳 (4.05%、514,489 人)、30～39 歳 (3.63%、552,104 人)、40～49 歳 (3.25%、616,806 人)、50～59 歳 (2.83%、435,075 人)、60～69 歳 (1.70%、311,924 人)、70 歳以上 (1.23%、301,863 人) の順となっています (図 2)。5～14 歳の年齢群の累積罹患率は既に 11%を上回って流行の中心となっていますが、一方で全ての年齢群で患者数の増加がみられています。また 70 歳以上の罹患率は他の年齢群よりも低いものの、推定受診者数は 30 万人を上回っており、罹患後の重症化率が高い年齢群であることから注意が必要です。

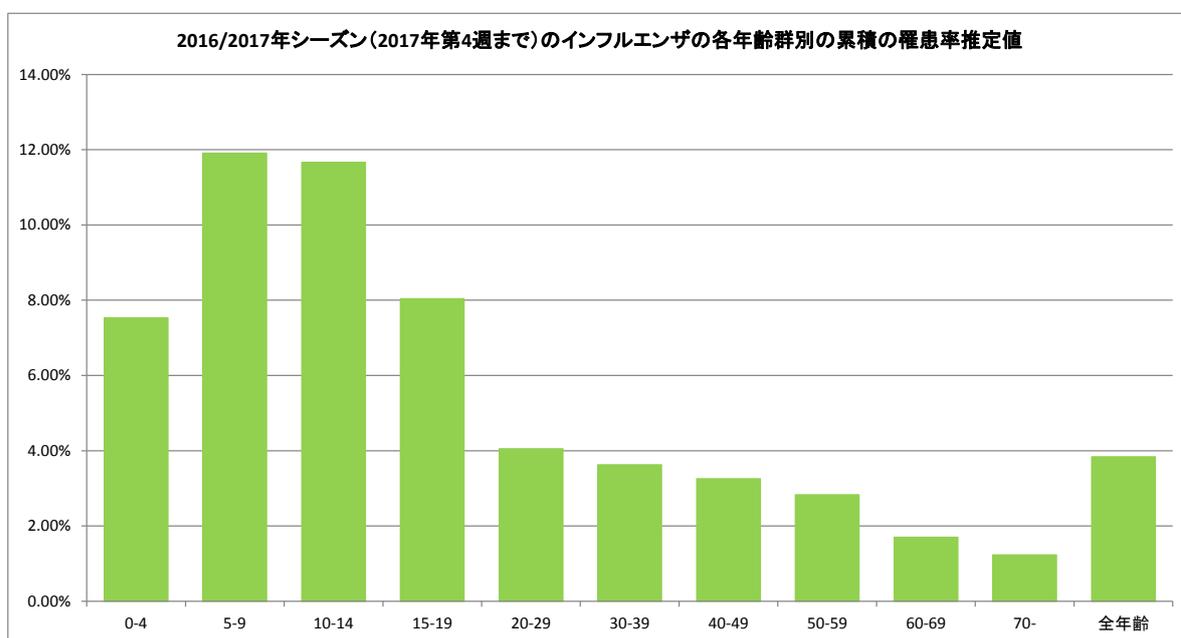


図 2. 年齢群別のインフルエンザ罹患率推定値 (2016 年第 36～2017 年第 4 週、累積の推定受診患者数総計=4,874,164)

各都道府県別の 2017 年第 4 週の人口 1 万人当たりの 1 週間の推定受診者数をみると、福井県、徳島県、大分県、岡山県、岐阜県、広島県、奈良県、宮崎県、三重県、静岡県、熊本県、愛知県、兵庫県の順となっており、流行の大きな地域は西日本で多くなっています。岩手県を除く 46 都道府県で前週 (第 3 週) よりも増加が見られました。

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報 (<https://nesid3g.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data2j.pdf>) によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス (1,763 検体解析) は、A/H3 (A 香港) 亜型が 90.9%と大半を占めており、次いで A/H1pdm 6.1%、B

型 3.0%の順となっています。

2017年第4週のインフルエンザの推定受診者数は前週を大幅に上回って約144万人と薬局サーベイランスが始まって以来の最高値となりましたが、一方で第5週は更に患者数が増加する可能性があります。今後ともインフルエンザの患者発生の推移には十分な注意が必要です。